

報道メディア設立プロジェクト 草案

平成17年11月12日(追記)
平成17年11月09日(追記)
平成17年11月04日(追記)
平成17年10月26日(未完)

泉あい

報道メディア設立プロジェクト 草案

■ 設立趣旨

市民とジャーナリストを隔てる壁がいつまでたっても崩れず、より高く分厚いものになっている。
ジャーナリストは自分の主張を市民に押し付け続け、市民はジャーナリストを貶し、論でやりくめようとする。
そして、ジャーナリストは取材に基かない「論」を空虚なものと無視し、市民は偏向した「取材」など無意味だと切り捨てる。
お互いがお互いの立場を必要と知りながら、交わることのない壁を作り続けている日本の報道の現状。

原因は「接点」が希薄ないことによる、双方の不理解だ。

「接点」とは単に新聞の部数やテレビの視聴率、著書の販売数や読者アンケートなどによる一方的な情報の流れではなく、ジャーナリストと市民がいつも双方向で意見や情報を交換できる「議論の場」を指す。
本来、その「場」を提供するべきものは、ジャーナリストが所属し働く新聞社や出版社、テレビ局やラジオ局のはず。
しかし現状は、市民は然り、所属するジャーナリストまでもが置き去りにされた情報発信に終始し、商業的に非効率な「接点」を本気で設けようとしているとは到底思えない。
それは一方向の情報伝達手段しか実質持ち得ない既存メディアの限界であり、元々「接点」など必要としないメディアだと想定すれば、仕方のない現状だとも考えられる。

双方向性を手段として持ち得ない一昔前までならば、小さな個の声をかき消す、大きな声という既存メディアの横暴も市民は許容するしかなかっただろう。
しかし双方向性を可能にするインターネットが構築され、容易に小さな個の声を結集して大きな声にする手段を持った現代では、市民が既存メディアの横暴を許容するはずがない。当然のように市民は今まで抑圧されてきた声を増幅させて既存メディアの横暴を攻撃し始め、今まで大きな声の特権としていた既存メディアは慌てふためき、目を耳を塞ぎ、時には市民を攻撃して自らの地位を確保し続けようとする。

一度手に入れた自らの声を増幅するインターネットを市民が手放す事はありません。
今後は更に加速度的に市民の声は大きくなっていくであろう。
既存メディアの絶対的な声の優位性は崩れ始めたのであり、そこにのみ固執する必然性はなくなったのだと個々のジャーナリストは気付くべきである。

本来ジャーナリズムとは市民の目となり耳となって隠された事実を焙り出し世間に公表する事にあるはず。その為に市民の協力は不可欠であり、時には市民がジャーナリストの目となり耳となることで相互補完をし合い、より精度の高い真実の追究ができる。

取材を積み重ねた上での議論と、議論を積み重ねた上での取材、市民の多様な立場からの論と情報、ジャーナリストの取材に基いた情報と論、2つの違う立場がお互いを必要とし、お互いを補完しあって真実に迫る。
今の日本の報道に最も足りないものであり、その「場」が出来ることによって、日本の報道は新たな領域に入ることになるであろう。

本企画はジャーナリストと市民の接点となる「場」を構築することを趣旨とする企画であり、「場」の基本理念として

全ての記事は議論の為に存在し、全ての議論は記事の為に存在する。

を掲げ、新しい報道機関の設立を提唱する。

■ 企画概要

企画

- ・報道機関の設立
- ・記者クラブの設立(常設記者会見場の設置)
- ・WEBサイトの構築

目的

市民とジャーナリストの接点に主眼を置いた、日本独自のネットジャーナリズムの確立。

設立年月日

2006年 1月 (予定)

運営主体

株式会社 交わる報道メディア(仮称) を設立。

出資者
経営責任者
報道編集責任者
記者クラブ責任者
WEB運営責任者
企画執行責任者 泉あい

財務基盤

報道メディア設立プロジェクト 草案

■ 全体概要

◇ 立ち位置の明確化

当企画で提唱する「場」の参加者を大きく分類すると「市民」と「ジャーナリスト」の2つに分かれる。
今流行の「市民記者」というあやふやな立場は存在せず、市民とジャーナリストは明確に分かれ、それぞれの立ち居地からの役割をこなすことを目的とする。

2つの立場から発信される「情報」は性格の違うものだ。
ジャーナリストから発信される情報は取材活動の上で裏取りをした公共性の高い「報道」であり、市民から提供される情報は文字通り「情報」であり公共性を担保されたものではない。
全ての情報は調査取材と裏取りをすることで報道という公共性を持つ「記事」へと変化する、との共通認識を持つ。

- ・市民 — 社会的立場からの生情報の提供
- ・ジャーナリスト — 取材に基いた調査情報の提供

この共通認識の上で行われる「議論の場」と、両者(市民・ジャーナリスト)の性格の違う情報を公表する2種類の「発表の場」を用意する。

発表の場で公開された「情報」は、何度も議論の場へ落とし込まれ循環させる仕組みを作り、精度の高い取材や記事へ繋がる糧とする。

◇ 2つの柱

提案する報道機関は大きく2つのセクションに分かれる。

<各セクションの役割>

1. 議論の場

様々な立場から公表された情報を取り込み、市民とジャーナリストが同列に議論できる場。取材されることを前提としたコミュニティ。

参加者の立場や場所に拘らず、24時間いつでも議論が可能なインターネットをインフラとしたものにする。また、話題や内容よりのカテゴリー分けや、各種情報の共有や関連付けなど、多機能なコミュニティプログラムにて運営する。

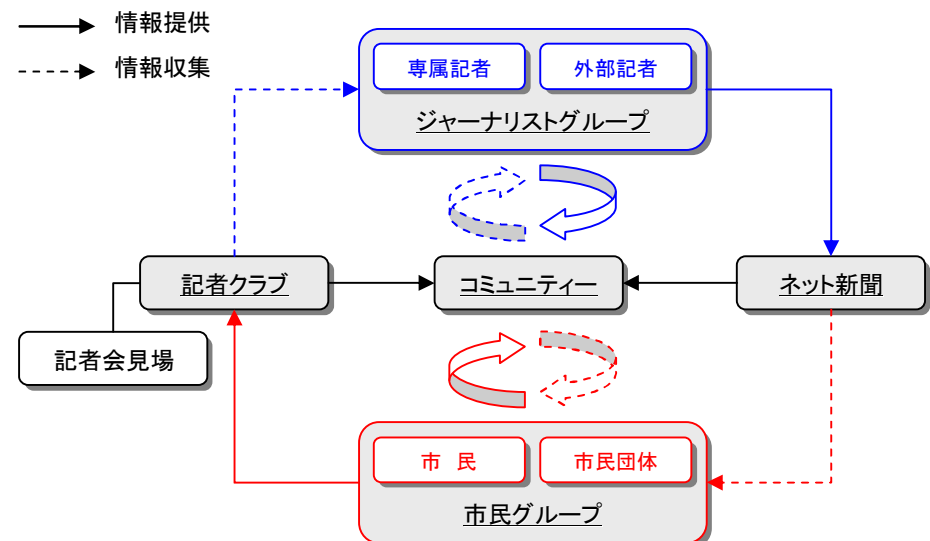
2. 発表の場

社会に対してそれぞれの立場から事実を公表し、議論の場へ絶えず新しい情報を供給する為の場。論評・反論・分析をされ、間違いがあれば是正され、絶えず追い取材を市民から求められる報道メディア。

市民が発表する場と、ジャーナリストが発表する場は、それぞれの立ち位置による情報の違い(公共性、等)を考慮して明確に分ける。

- ・ジャーナリスト — ネット新聞
取材・裏取りで公共性を担保した「記事」を公表する場。
- ・市民 — 記者クラブ
市民が報道メディアに対して、主張や活動報告を公表する場。
常設の記者会見場と、記者会見の動画配信や記者発表資料を一般公開できるWEBサイトを運営する。
(便宜上、記者クラブとの単語を使用しているが、既存の記者クラブとは正反対の原則オープンなものを構想している。)

これら2つのセクションを当企画が提唱する報道機関の柱とし、それぞれに既存メディアにない新しい発想を取り入れて構築していく。



報道メディア設立プロジェクト 草案

■ 運用概要

・運営サイトの3分割

議論の場の「コミュニティ」、発表の場の「ネット新聞」と「記者クラブ」は、それぞれに運営主体を持つ独立したサイトとして運営される。

・システムの統合と情報の共有

コミュニティ、ネット新聞、記者クラブは、それぞれ独立したサイトとして運営されるが、システム上はコミュニティをベースとした1つの同じプログラムの上で稼動し、全ての情報(ユーザー情報、記事、記者発表資料、議論のコメント・TB、など)は共有され関連付けられる。

・システム基盤

ベースとなるコミュニティプログラムは、
現GripForum(参照URL : <http://www.surusuru.com/forum/>)
をユーザーインターフェースからフルカスタマイズして使用する。

・発言方法

記事や記者発表資料、議論などへの意見の発言方法は2種類に分別される。

1) コメント

ネットを介してコミュニティから直接意見を書き込む方法。

2) トラックバック(TB)

自らが運営するBlogでエントリーを作成し、リンクさせる方法。

・情報の違い

サイトで扱われる情報は性格によって2種類に分別される。

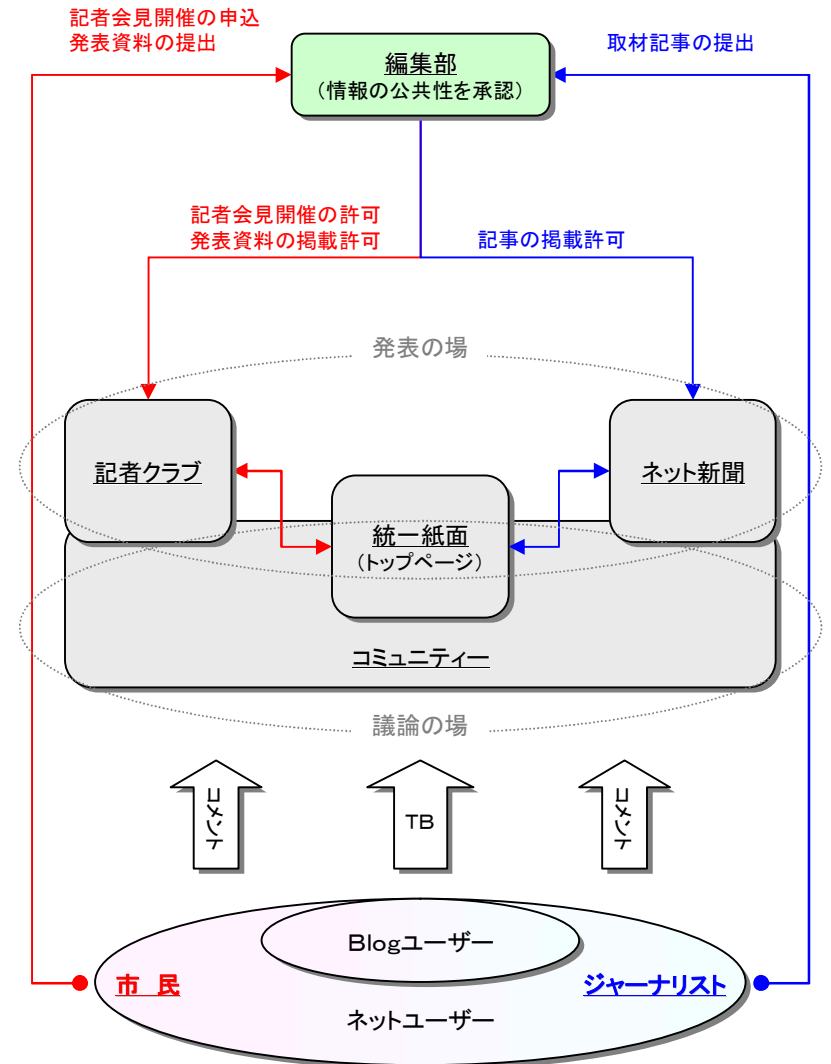
1) 承認情報

発表の場(ネット新聞、記者クラブ)で記事や記者会見・記者発表資料として公開される公共性を承認された情報。

2) 未承認情報

議論の場(コミュニティ)でコメントやトラックバックとして扱われる、公共性を承認されていない情報。

コミュニティ内では記事などの承認情報とコメントなどの未承認情報が混同して扱われる為、アイコンなどで明確に情報の種類の違いがわかるように表示する。



TB=トラックバック

報道メディア設立プロジェクト 草案

■ 運用概要 — 参加者の詳細種別と権限

議論の場の「コミュニティ」、発表の場の「ネット新聞」と「記者クラブ」、これらの参加登録は、統一フォーマットによってコミュニティ上で行い一元管理される。
各ユーザー種別によって登録条件となる義務が分かれ、ユーザー種別毎に違った行動権限が与えられる。

<市民グループ>

・市民団体(NPO、NGO、など)

権限

- * 所属する団体のイベントスケジュールの掲載
- * 記者会見の開催・参加
- * 記者発表資料の公開・閲覧
- * 議論参加
(コメント／TBの書込み、タグTBの送信)
- * 記事・議論の閲覧

義務

- * 記者クラブ使用年会費の支払い
- * 所属団体の詳細情報(代表者・メンバーなど)の登録・確認

・個人証明登録ユーザー

権限

- * 記者会見の開催・参加
- * 記者発表資料の公開・閲覧
- * 議論参加
(コメント／TBの書込み、タグTBの送信)
- * 記事・議論の閲覧

義務

- * 記者クラブ使用年会費の支払い
- * 個人を特定できる情報の登録・確認

・一般登録ユーザー

権限

- * 記者発表資料の閲覧
- * 議論参加
(コメント／TBの書込み、タグTBの送信)
- * 記事・議論の閲覧

義務

- * 名前(HN)・メールアドレスの登録

・未登録ユーザー

権限

- * 記事・議論の閲覧

義務

- * なし

<ジャーナリストグループ>

・専属ジャーナリスト(当報道機関の社員記者)

権限

- * 記事の執筆・掲載
- * 記者会見の開催・参加(外部の登録記者クラブを含む)
- * 記者発表資料の公開・閲覧
- * 議論参加(コメント／TBの書込み、タグTBの送信)
- * 記事・議論の閲覧

義務

- * 個人を特定できる情報の登録・確認
- * 秘守義務契約

・フリージャーナリスト(外部報道機関の所属社員を含む)

権限

- * 記事の執筆・掲載
- * 記者会見の開催・参加(外部の登録記者クラブを含む)
- * 記者発表資料の公開・閲覧
- * 議論参加(コメント／TBの書込み、タグTBの送信)
- * 記事・議論の閲覧

義務

- * 記者クラブ使用年会費の支払い
- * 個人を特定できる情報の登録・確認
- * 秘守義務契約

・研修員ジャーナリスト(市民記者の概念に職業性を付加した記者)

権限

- * 記事の執筆・掲載
- * 記者会見の開催・参加(外部の登録記者クラブを含む)
- * 記者発表資料の公開・閲覧
- * 議論参加(コメント／TBの書込み、タグTBの送信)
- * 記事・議論の閲覧

義務

- * 記者クラブ使用年会費の支払い
- * 個人を特定できる情報の登録・確認
- * 秘守義務契約

報道メディア設立プロジェクト 草案

■ 共通システム概要 — 統一紙面のレイアウトイメージ



■ 共通システム概要 — 分類と種別

当メディア内にある全ての情報は共通のテーマによる「分類」に分けられ、情報の性格による「種別」にて固有に運営される。

<分類>

・小分類 — スレッド・一次情報

単一的话题で意見や情報を纏めたグループと、単独の一次情報群(記事、記者会見動画、記者発表資料)

・中分類 — フォーラム

同一的话题でスレッドや一時情報を纏めたグループ

・大分類 — カテゴリー

用途の違いでフォーラムを纏めたグループ

<種別>

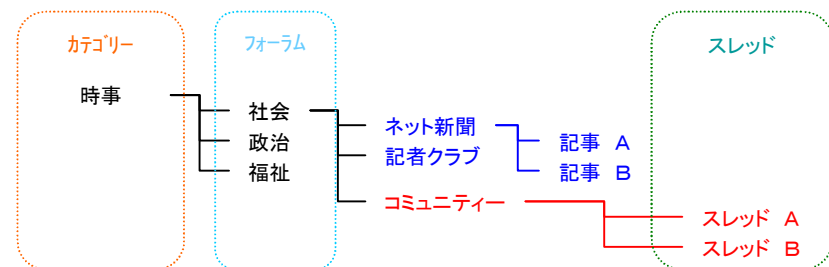
・記事スレッド — ネット新聞 記者クラブ

ネット新聞、記者クラブから発表される情報(記事・記者会見動画・発表資料)のコメント欄として運用されるスレッド。

・コミュニティスレッド — コミュニティ

参加者が自由に話題を提案して作成・運用するスレッド。

—— 記事スレッド
—— コミュニティスレッド



報道メディア設立プロジェクト 草案

■ 共通システム概要 — タグTB機能(関連情報)

情報のHUBとなる集約機能。

コミュニティ、ネット新聞、記者クラブ、ユーザー登録者の外部Blog、にある全ての情報を同じ話題毎に纏めて、各情報それぞれに一覧表示する。

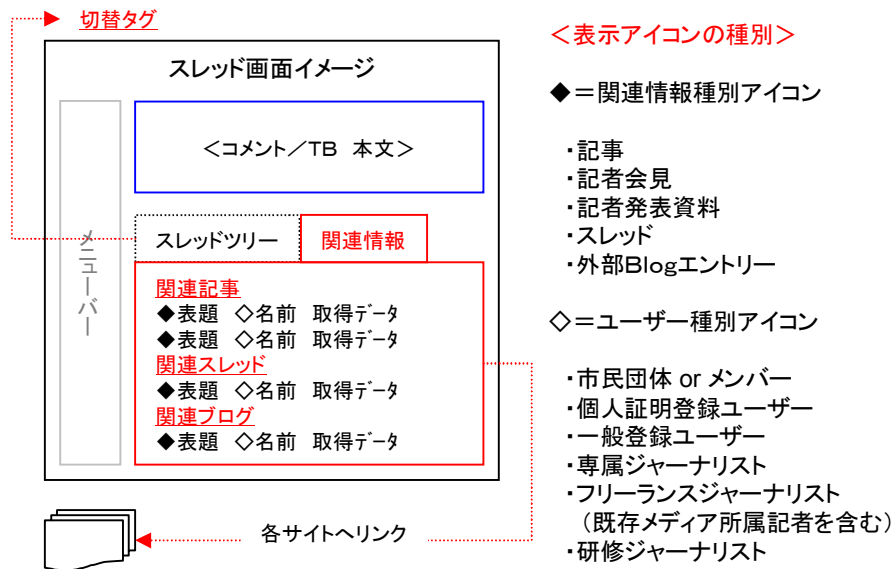
情報の関連付けは、各情報の作成・登録時に本文とは別に指定キーワードを「タグ」として登録し、そのタグを元に一致検索され各情報に保有される。

タグを所持する情報単位

- * スレッド(コミュニティ)
- * 記事(ネット新聞)
- * 記者会見動画(記者クラブ)
- * 記者発表資料(記者クラブ)
- * 外部Blogエントリー(登録ユーザー)

この機能により、1つの記事やスレッドなどから、関連した様々な情報が繋がり、多様な意見を容易に把握することができるHUB情報となる。

画面イメージ



・タグTBの登録手順とイメージ

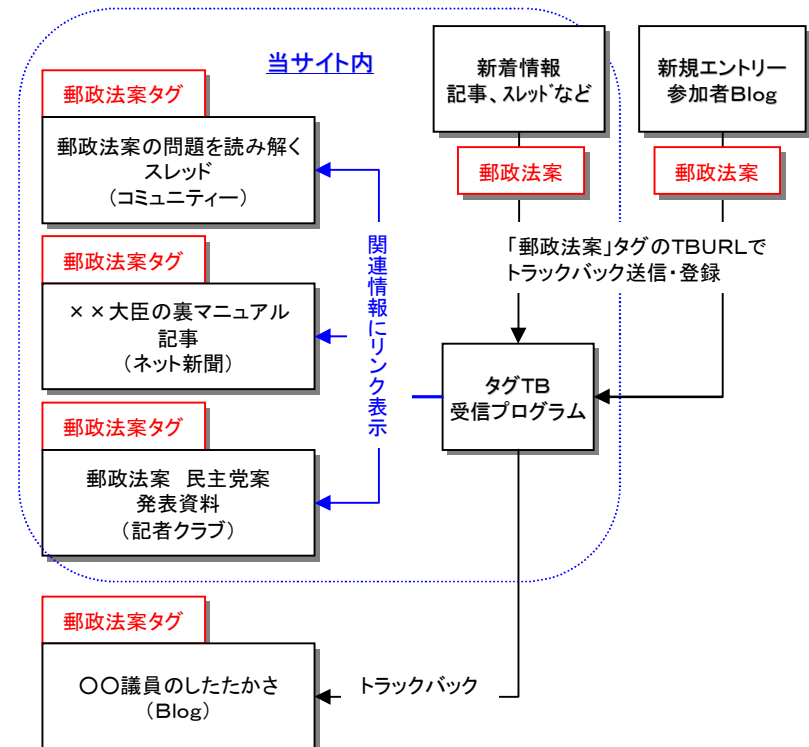
手順1 タグTB専用ページにて対象キーワードの検索

- * 未登録キーワード
新規タグとして登録され、新たなトラックバックURLが発行される
- * 登録済みキーワード
該当タグのトラックバックURL表示と、登録されている情報の一覧表示

手順2 発行されたトラックバックURLを情報(記事、Blogエントリーなど)に貼りつけて登録。

- * サイト内情報(記事、記者会見、記者発表資料、スレッド)
情報作成画面のタグTBURL登録欄に発行されたタグTB用トラックバックURLを入力して作成・登録
- * 外部情報(登録ユーザー運営Blogのエントリー)
BlogのトラックバックURL登録欄に発行されたタグTB用トラックバックURLを記述して送信

手順イメージ (例)



報道メディア設立プロジェクト 草案

■ ネット新聞概要

ネット新聞はジャーナリストが取材を行った情報を記事として社会に公表する場。言いっぱなしで完成させる既存のマスコミとは違い、ベースに市民が存在することを様々な仕掛けで表し、市民間の議論のための基礎情報となる報道を目指す。

大切なことは、情報と議論は常に一体でなければいけないという概念だ。この場合の情報とは取材結果による「記事」の事で、議論とはその情報を元にした論評や分析、反論などである。

既存マスコミの問題は、これら全てをマスコミ内部だけで処理して1つの紙面に作り上げていることであり、ここに市民とジャーナリストの格差が生じる原因の1つがある。

取材行為による「記事」を書く事は片手間でアマチュアがするべきではないが、その記事や時事に対しての論評などは、個々の様々な立場からの視点があり、その多様性が知りたいという好奇心から今のインターネットは成り立っている。既存マスコミが、その多様であるはずの論評部分を市民に開放せず抱え続けることが、市民との乖離に繋がっている。

ジャーナリストの論評が絶対ではないし、市民の論評も絶対ではない。それならば、両者の立ち位置からの様々な論評を含めて紙面にすればいい。

当ネット新聞では、この考えを元にしてそれらを実現するものである。

◇ 1、記事の地域割とジャーナリストの区分け

掲載する記事は時事の発生する地域毎に分け、それぞれの担当地域をジャーナリストの種別で区切る。

- ・地域ニュース
各地方で起こる時事を取材した記事。

担当ジャーナリスト区分

- * 各地方紙
地方新聞社との提携
- * フリージャーナリスト

- ・中央ニュース
中央政界や各省庁、海外で起こった時事を取材した記事。

担当ジャーナリスト区分

- * 専属ジャーナリスト(社員記者)
- * フリージャーナリスト

◇ 2、論評の開放と表示内容

・論評の開放

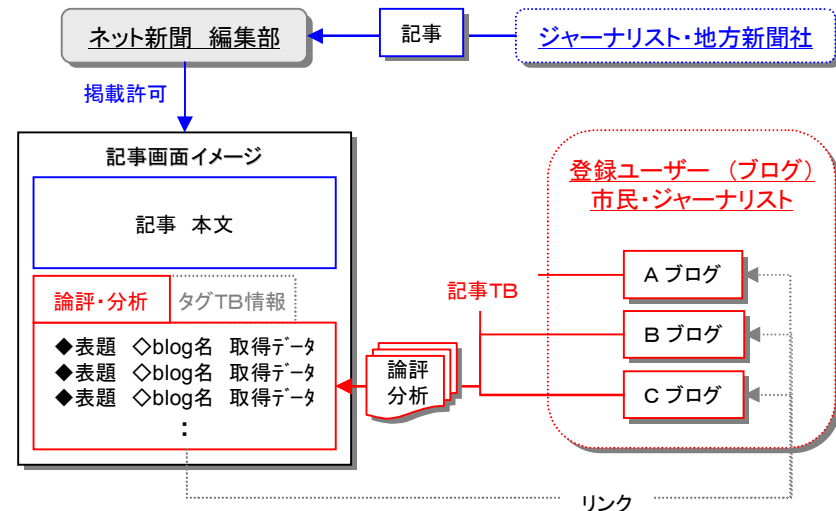
取材した記事の論評を市民へ開放し、ジャーナリストの記事と市民の多様な論評を合わせた紙面作り。

紙面制作の工程

- 1) ジャーナリスト、提携地方新聞から上がってきた記事を当メディアの編集部で確認。
- 2) 記事の裏取りや確認作業の上、正式な記事として一般公開。
- 3) 登録ユーザーの運営ブログから論評エントリーを記事固有のトラックバックURLに送信。
- 4) 受信した論評エントリーを記事画面にヘッドライン方式にてリンク表記。

・記事本文に表示される情報一覧

- * 記事本文
写真、動画、テキストの表示
- * 論評・分析ブログ一覧
- * 関連情報(タグTB)
記事が持つキーワードタグと同じタグを持つ各種情(スレッド、他の記事、記者会見、記者発表資料、ブログエントリー)をヘッドライン形式で一覧リンク表示する。



報道メディア設立プロジェクト 草案

■ ネット新聞概要

◇ 3、紙による配信

当メディアはインターネットの双方向性をフルに利用しようとの大前提に立った企画ではあるが、こと記事の配信においては紙の有用性を否定するものではない。紙媒体の最大の利点は手軽さにある。移動中に駅の売店やコンビニ、本屋で簡単に手に入り読める紙の手軽さはニュース配信としては無視できない。その理由から、ネットの双方向性と速報性を維持しながら、紙による配信機能も取り入れて運営する。

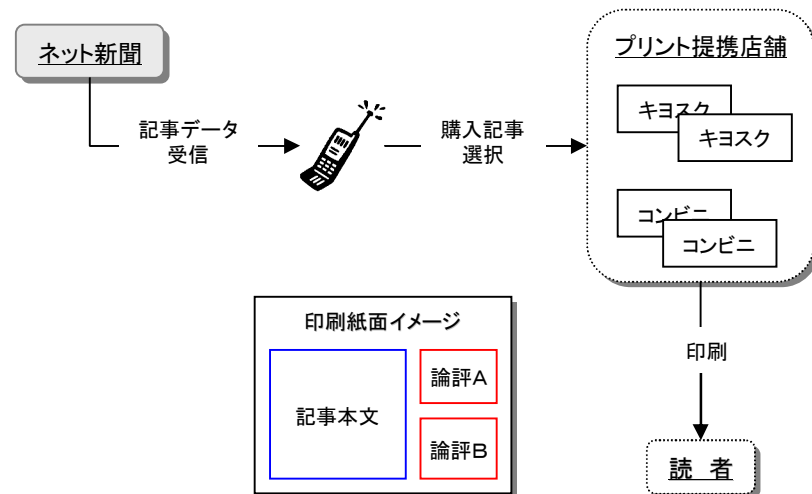
・紙配信の仕組み

データ受信と記事毎の購入

既存の紙媒体のように印刷されたものを購入する形式ではなく、時事刻々と生成される情報から興味のあるものだけを選択し、購入する。データの受信は携帯電話によって専用アプリを無料配信し行う。

紙面印刷

選択した記事を身近なコピー機を置いている店舗(キヨスク、コンビニなど)で携帯を接続(USBやSBカードなど)し、その場で印刷する。選択された記事は記事本文だけではなく、ブログから送られてきた市民・ジャーナリストの様々な論評も合せて紙面として印刷する。



◇ 4、記事の原稿料と、論評の報酬

当メディアに掲載される記事と共に、論評を執筆したブロガーにも報酬が必要である。ジャーナリストへの取材と記事に対する報酬があるように、市民の執筆する論評もプロの仕事として認める為に報酬が必要である。

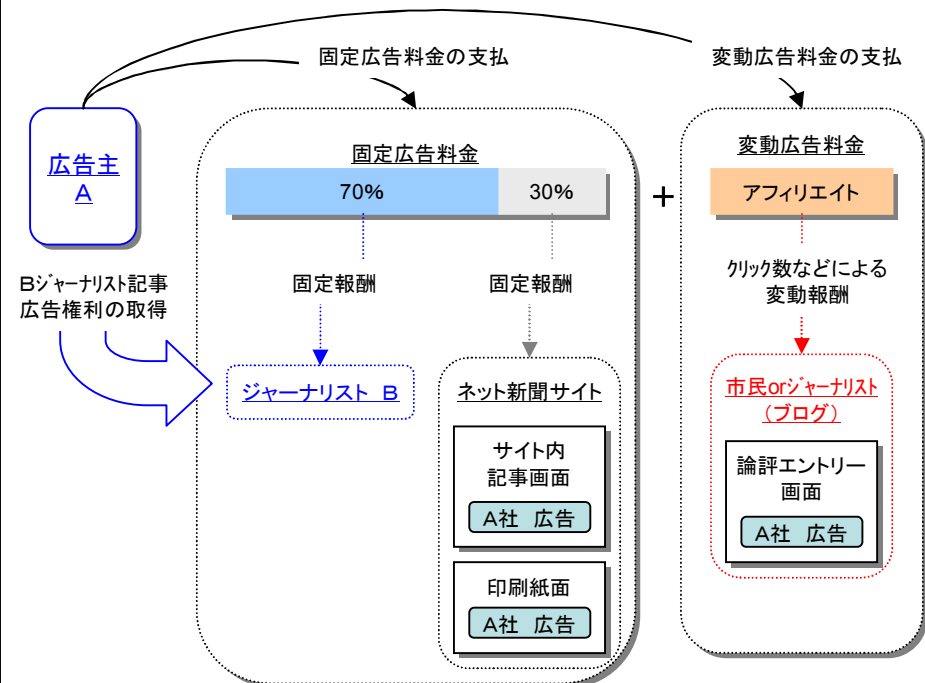
・報酬の仕組み

ネット新聞上で情報を発信する、地方新聞社、フリージャーナリスト、専属ジャーナリスト、論評ブログはそれぞれに独自性を持った情報を発信することになる。

当然情報には、各々に地域性などを加味した方向性があり、読者の要求も特性も違ってくる。

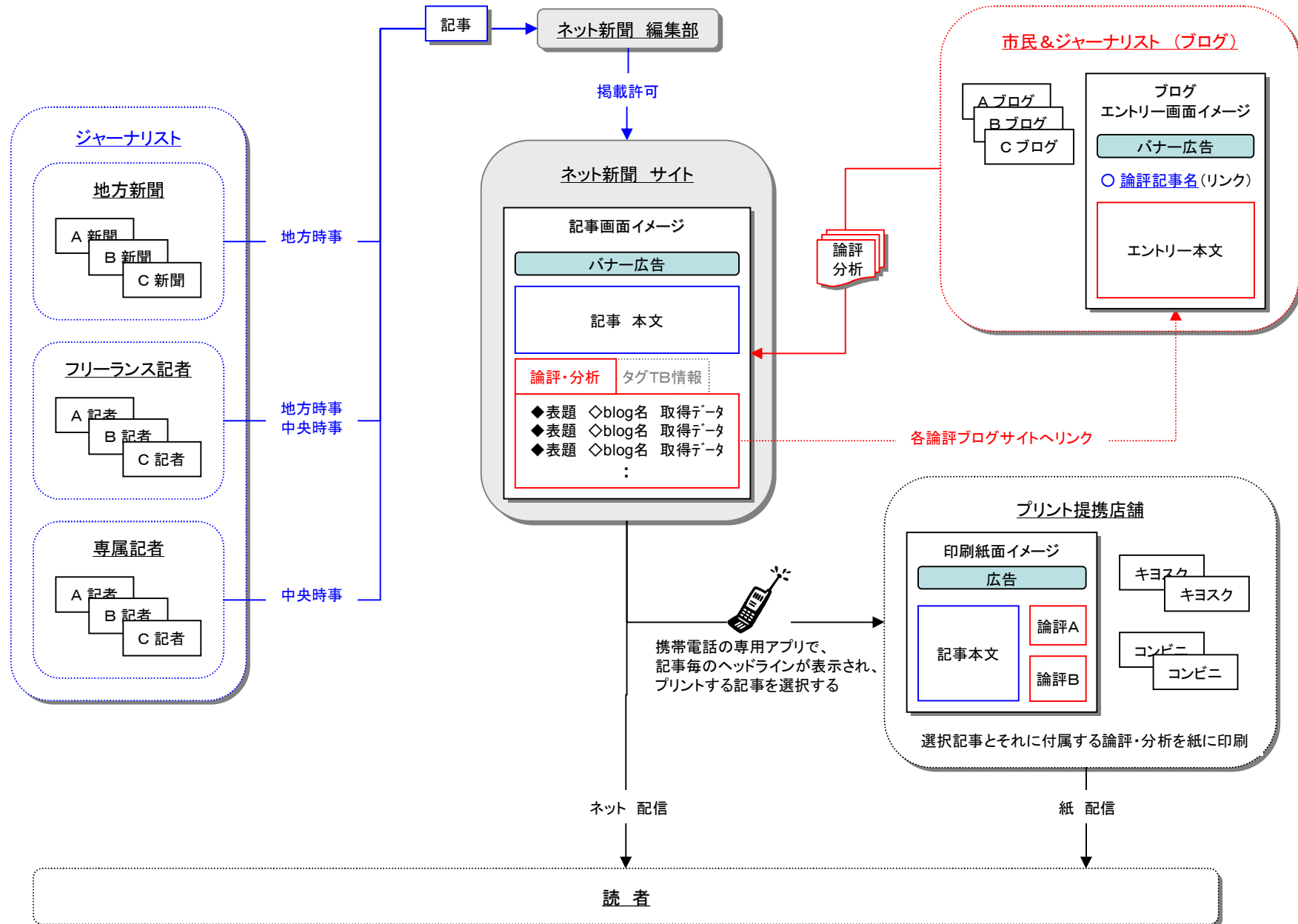
これらを考慮して、各情報発信者(社)毎に広告主を募り、その広告料の記事、論評、管理の3者で配分する仕組みを提案する。

広告主が付いた情報発信者の情報には固定の広告料金の70%を支払い、管理費として当メディアが30%を得る。そして、その情報にぶら下がる情報には広告に対するアクションをカウントするアフィリエイト方式にて報酬を支払う。



報道メディア設立プロジェクト 草案

■ ネット新聞概要 - 全体イメージ



報道メディア設立プロジェクト 草案

■ 記者クラブ概要

市民から発表されるあらゆる資料（記者会見、テキスト資料、動画資料、など）を公表する場。そしてそれら膨大な資料の書庫。
ネット新聞がジャーナリストの取材によって公共性が担保された発表の場であることの対岸として、それらの記事の元となる純粋な精査されていない一次情報の発表の場として存在し、公開される。
利用者が認識しなくてはならないのは、この場に公表された情報には何も信憑性は担保されていないことだ。その共通認識の上で、市民とジャーナリストが議論をできる前提情報を共有するとの目的の為に絶対に欠かせないものとなる。

もちろん、公開される情報だけが全てではなく、内密にジャーナリストへ直接届ける情報や、噂話の類はこの発表の場での公表は相応しくない。
この場で公表される情報は、当事者が自ら望んで社会に公表したいと考え、取材対象になって公共性を担保されることを望むものに限る。

◇ 発表方法の違いと場所

記者クラブで公表される情報は提供方法によって大きく2種類に分類され、2つの場を用意する。

1、インターネット

テキストデータ、音声データ、画像データなどのデータ化された情報はインターネット上にある当サイトにて公開・保存される。もちろん動画や音声など大きなデータを保管するサーバーは無償提供される。
情報の受取と配信は全てインターネットで行い、記者クラブ利用登録を完了しているユーザーであれば、誰でもどこからでも情報の送信が可能となり、記者クラブ編集者が内容確認の上、承認すれば、瞬時に一般公開される。

2、記者会見場

データではなく、直接ジャーナリストやメディアに対して口頭で公表を行いたい時に利用する場。
原則オープンな場で、コミュニティからの記者クラブ利用ユーザー登録をしていればフリージャーナリスト、既存マスコミ記者、市民、誰でも入館し参加できる。もちろん、その場で公表された記者会見の様子は参加者が利用できる発信媒体での利用も許可される。
当メディアでも随時記者会見の様子を撮影し、ネット上にて動画配信する。

飲食ができるラウンジを併設し、記者同士や記者と市民の気軽な交流の場になることが理想。

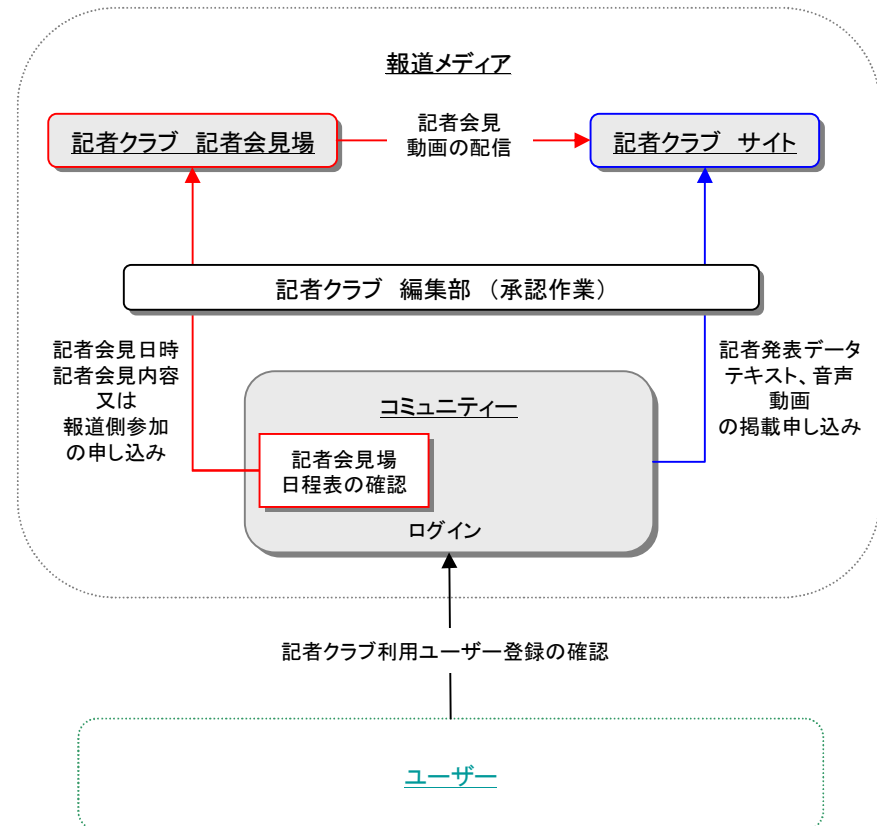
◇ 記者クラブ利用義務と権限案

記者クラブの利用は原則オープンであるが、義務を負わない身勝手な公表や報道を手助けするものではない。
未確定の一次情報の公開や、情報提供者と直接対面する記者会見場の出入りをするには、それ相応の義務が必要と考える。

記者クラブ利用登録ユーザーの義務

- * 個人を特定できる情報の登録と確認
- * 所属団体の詳細情報の登録と確認
- * 記者クラブ使用年会費の支払い（月額数で百円程度負担）

記者クラブ イメージ



報道メディア設立プロジェクト 草案

■ 記者クラブ概要

◇ サイト内の記者会見動画、記者発表資料の表示内容

・記者クラブサイトの画面に表示される情報一覧

* 記者発表資料

動画、音声、テキストの表示

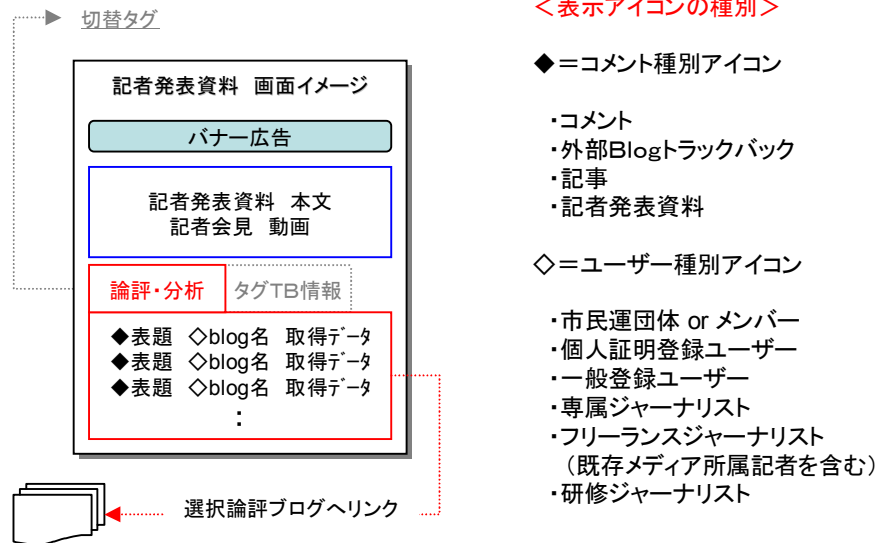
* 論評・分析ブローガー一覧

記者発表資料、記者会見に対する論評ブログエントリーをヘッドライン形式で一覧リンク表示する。

* 関連情報(タグTB)

記者発表資料又は動画が持つキーワードタグと同じタグを持つ各種情報(スレッド、記事、他の記者会見動画、記者発表資料、ブログエントリー)をヘッドライン形式で一覧リンク表示する。

記者発表資料・記者会見動画の表示イメージ



報道メディア設立プロジェクト 草案

■ コミュニティー概要

コミュニティは、市民やジャーナリストなど様々な立場からの意見や、ネット新聞・記者クラブや外部Blogからの情報を統括して議論を行う当報道機関の根幹となるシステムである。
全ての情報(記事、記者発表資料、外部ブログエントリー)をスレッド内に落とし込む機能をメインに構築された総合掲示板の構築を目指す。

◇ カテゴリー(大分類)による用途の違い。

大きな分類として用途の違う2種類のカテゴリーに分かれる。

1、時事 カテゴリー

* 用途

メディアで報道される大きなニュース、身近な出来事、訴えたい何か、活動報告、ボランティア告知、などなど様々な話題で意見や情報を交わすメインカテゴリー。

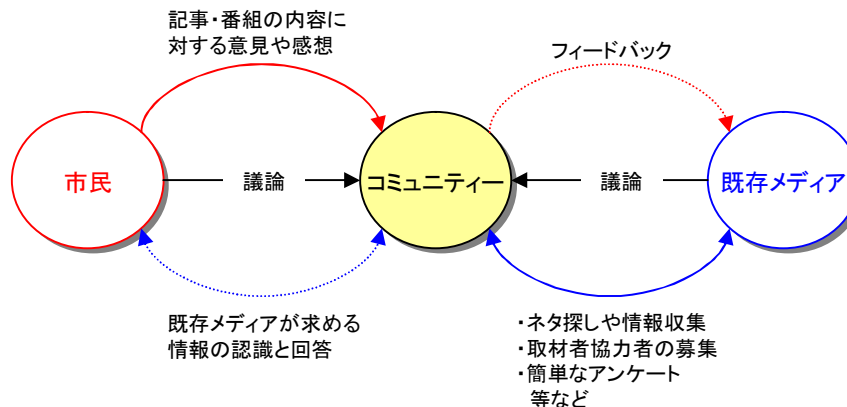
2、視聴者・読者センター カテゴリー

* 用途

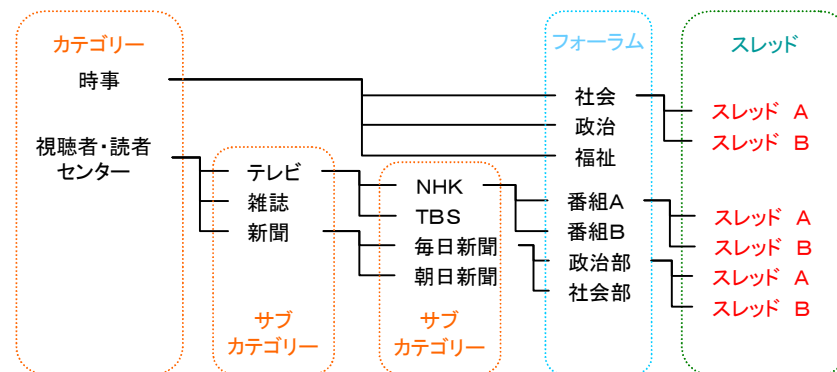
新聞、雑誌、テレビなどの既存メディアが日々報道する内容に対して意見や情報を交わすカテゴリー。

既存メディアで働くジャーナリスト(記者、編集者、ディレクター、プロデューサーなど)が、直接情報の受け手である市民と対話する場を提供する。
市民が意見や感想を一方的に発言するだけではなく、既存メディア側からも所属する個の立場から意見を発言し、時には紙面や番組制作の情報収集などの協力を呼掛ける。
このようなコミュニティを既存メディア各々が自社で抱えるのではなく、第3者である当報道機関を利用することによって、運用ノウハウの有無で自社サイトが必要以上に荒れてイメージを落とすことを避けられる。
また、人材や資金面を心配することなく、読者との接点を持つ一歩を踏み出すことが容易になり、市民とマスコミの溝を埋める切欠にもなるはずである。

・視聴者・読者センターカテゴリー イメージ



・コミュニティ全体分類 イメージ



報道メディア設立プロジェクト 草案

■ コミュニティー概要

◇ フォーラム(中分類)の表示内容と、所属ジャーナリスト表示

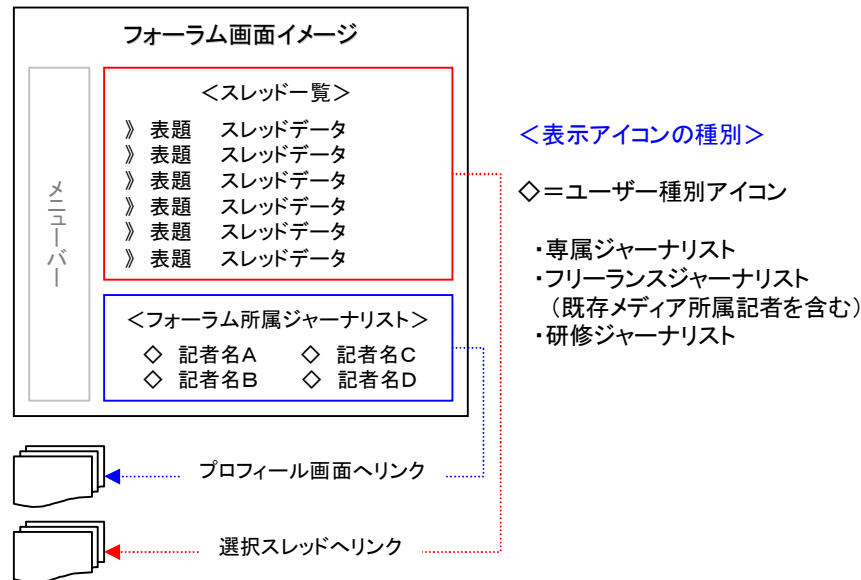
- ・スレッド一覧の表示
スレッドの表題と様々なスレッド内情報をヘッドライン形式で表示する。

・所属ジャーナリスト表示

当サイトに登録するジャーナリストは、必ず特定のフォーラム(複数可)に所属することを義務付けられ、フォーラム画面ではそのフォーラムに所属するジャーナリストの名前を一覧表示する。

市民は所属ジャーナリストのプロフィールから今までの発言や記事を知り、プライベートメッセージ(サイト内メール)などの気軽なコンタクトで、より一層の問題提起が可能になり、当事者意識を持つことができる。

また、ジャーナリストは自分の所属するフォーラムで日々交わされる様々な問題提起を受け、取材意識の高まりを実感できることになる。

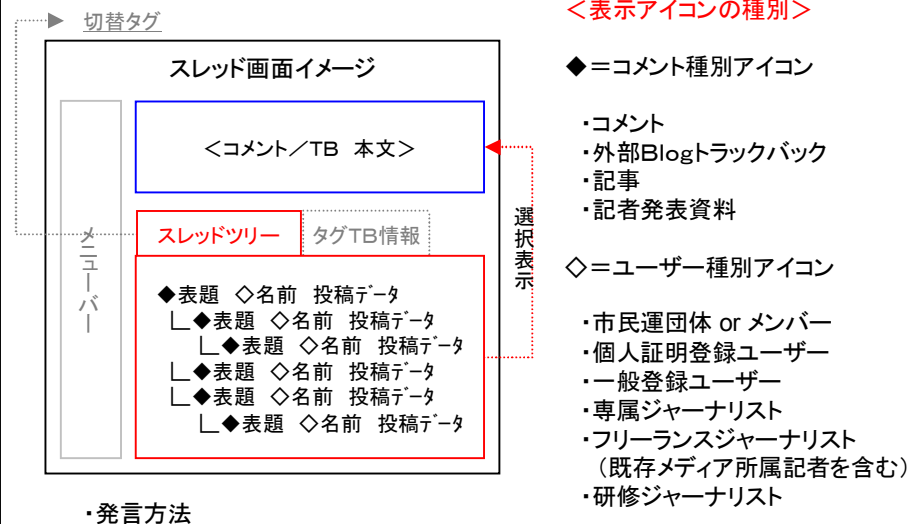


◇ スレッド(小分類)の表示内容と、発言方法

- ・スレッド画面に表示される情報一覧

- * コメント本文
指定されたコメント又はTBの本文を表示する。
- * スレッドツリー(相関図)
スレッド内のコメントやTB、記事などの関係性をツリーを用いて表示する。
- * 関連情報(タグTB)
スレッドが持つキーワードタグと同じタグを持つ各種情報(他のスレッド、記事、記者会見、記者発表資料、ブログエントリー)をヘッドライン形式で一覧リンク表示する。

スレッド表示 イメージ



スレッド内に発言する方法はコミュニティ内の発言ページから直接意見を書込む方法と、ユーザーが運営するブログなどからトラッキングバックによって発言する「コメントTB」機能の2種類がある。(参照: 現GripForum)

また、トラッキングバックを用いる発言方法には、サイト内部の記事・記者会見動画・記者発表資料の一次情報から送信する方法と、サイト外部のブログエントリーから送信する2つに分かれ、サイト内のトラッキングバックには「逆TB機能」がある。

* 逆TB機能、コメントTB機能の詳細説明は次のページ

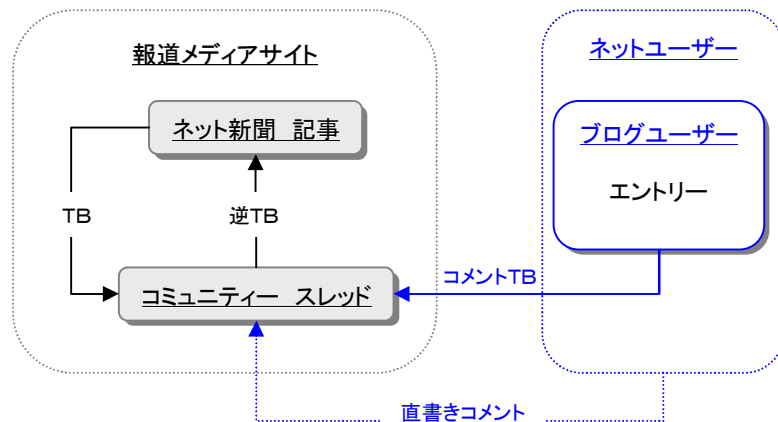
報道メディア設立プロジェクト 草案

■ コミュニティー概要

コメントTB

コメントには、1つ1つ専用のトラックバックURLが作られ表示されており、それぞれのコメントやトラックバック毎に、外部Blogからエントリーをトラックバック送信して議論参加することができる。(参照: 現GripForum)

スレッド発言 イメージ



スレッドツリー内イメージ

- ◆表題 ◇名前 投稿データ
 - └◆記事A(逆TB)
 - └◆直書きコメント
 - └◆TBコメント(外部ブログ)
 - └◆直書きコメント
 - └◆記事B(TB)
 - └◆TBコメント(外部ブログ)

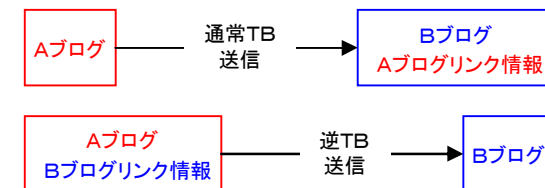
逆TB機能

通常のトラックバックはトラックバックを送信した相手のリンク情報がトラックバックを受信した相手に表示される。

逆TB機能とは、トラックバックを送信した先の相手の情報が、トラックバック送信した側にリンク表示される機能。

この機能によって、スレッド内に一次情報(記事、記者発表資料など)を誰でもコメントとして表示させることができ、その一次情報に対しての議論展開が可能になる。

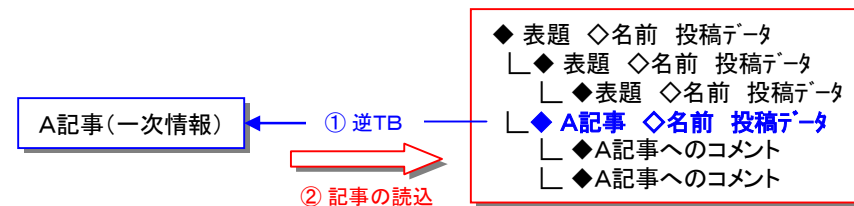
逆TB イメージ



逆TB機能の活用具体例 イメージ

逆TB機能を使って、記事をスレッド内の1コメントとして読み込み、スレッドの話題にそった論評を展開する。

スレッドツリー内イメージ



* 報道メディア内の一次情報(記事、記者会見動画、記者発表資料)への逆TBや、一次情報からのTBによって関連付けされたスレッドは、一次情報内のタグTB情報に「TB情報」項目としてリンク表示される。

■ コミュニティー概要

◇ その他のコミュニティ機能

- ・ユーザー別プロフィールページの設置
氏名(HN)／登録ユーザー種別／所属フォーラム(ジャーナリストグループのみ)／
所属市民団体(市民団体メンバーのみ)／年齢／所在都道府県／出身都道府県／
職業／所属／趣味／自己紹介／運営Blog名／運営BlogのURL(リンク)／運営
Blog更新情報(最新エントリーの表示とリンク)／執筆記事リンク／記者会見リンク
／記者発表資料リンク／作成スレッド一覧リンク／スレッド発言一覧リンク／
プライベートメッセージ／
 - ・ユーザー別執筆記事一覧ページの設置
 - ・ユーザー別記者会見動画一覧ページの設置
 - ・ユーザー別記者発表資料一覧ページの設置
 - ・ユーザー別作成スレッド一覧ページの設置
 - ・ユーザー別スレッド発言一覧ページの設置
 - ・プライベートメッセージ(サイト内メール)機能
 - ・サイト内詳細検索エンジン
 - ・スケジュールカレンダー機能
記者会見日程の表示と予約
 - ・購読(お気に入り)スレッド登録・表示機能
 - ・ユーザーグループ作成機能
 - ・ユーザーグループ別フォーラム作成機能
(グループメンバーのみ投稿・閲覧)
- Etc...

報道メディア設立プロジェクト 草案

■ 収益モデル

当報道機関の収益を考える上で大原則となる理念がある。
それは、「全ての情報は無料で誰もが何時でも閲覧できる」である。
設立趣旨で述べたように、当メディアで取得されるあらゆる情報は議論をする為のものとの位置づけがされており、その議論のベースとなる情報を閲覧するのにどのような制約もあってはならない。
それは自ら掲げた議論の場の否定になり、その先にあるのは既存メディアと同じ、特定の限られた人だけが重要な情報に辿り付ける閉じられた報道になってしまうことになるからだ。
この大原則を元に3つのセクションに分かれた収益基盤を当企画では提案する。

- 1、記者クラブ利用年会費
- 2、バナー広告
- 3、参加ユーザーアフェリエイトパートナー制度

◇ 1、記者クラブ利用年会費

記者クラブへの直接的な参加を希望するユーザーからの利用料金の徴収による収益確保。
記者会見場での会見開催や、記者クラブサイトでの情報(テキスト、動画、音声)発信を希望する情報発信者、または記者会見での会場参加を希望する報道者は、個人単位で記者クラブ利用年会費を負担していただく。
(サイト上にてデータ化された情報の閲覧は制限なしに無料で誰でも可能。)

記者クラブ利用ユーザー登録

- * 対象
市民、市民団体、フリージャーナリスト、既存メディア所属ジャーナリスト
- * 登録条件
個人を特定できる証明書の提示と確認
所属する団体の証明書提示と確認
- * 年会費
月額300円～500円の1年分一括支払
- * 利用施設と機能
記者会見の開催と参加
記者クラブサイトへの情報(テキスト、動画、音声)配信とアーカイブ化
サーバースペースの貸し出し

概算と目標

市民個人、市民団体(NPO、NGOなど)、各ジャーナリストで1万件の利用登録を目指す。特に全国に何万
これにより、記者会見場と併設する予定の、ラウンジ(飲食場)、当報道メディア事務局の家賃代金捻出を目標とする。

◇ 2、バナー広告

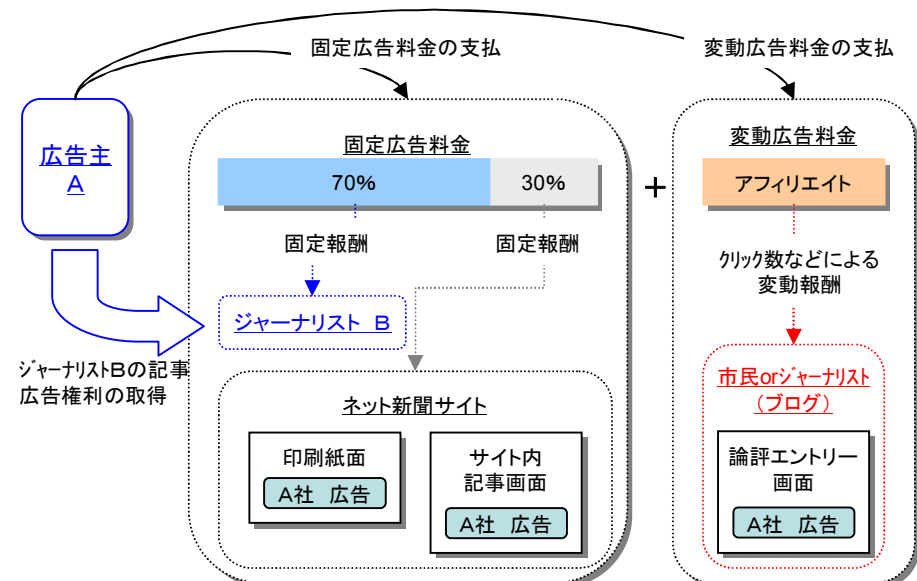
広告スペースの販売による収益確保。
原則として当メディアを対象にした広告主は募らず、情報発信者毎に広告主を募り、広告主の意思を分散させて特定の意思を当メディア運営に反映されない形をとり、個別の意思の集合体として1つの思想に偏ることを回避する。
具体的なバナー広告運営方法は、ネット新聞概要の「4、記事の原稿料と、論評の報酬」に準じ、広告主が情報発信者の発信情報内に表示する広告権利とその情報に繋がる2次的情報(論評、記事、記者発表資料)を買取る方式をとる。

広告権利取得単位

- * ジャーナリスト(フリー、専属、研修)
ネット新聞サイト内の記事(当メディアサイト内)
論評エントリー(自運営ブログエントリー内)
- * 市民(一般、市民団体所属)
記者クラブサイト内の記者発表資料、及び記者会見動画(当メディアサイト内)
論評エントリー(自運営ブログエントリー内)

概算と目標

記事を執筆するジャーナリストだけでなく、論評を書く論評者、一次情報を発信する市民や市民団体などの全ての情報にスポンサーをつけるよう努力する。
その為に広告料金の設定は低く抑え、店舗単位での小規模スポンサーの獲得を容易にする必要がある。
この収益によって、記事の執筆料や取材費など報道活動にかかる全ての経費捻出を目標とする



報道メディア設立プロジェクト 草案

■ 収益モデル

◇ 3、参加ユーザーアフィリエイトパートナー制度

参加ユーザーの広告媒体化による収益確保。
情報格差とインターネットのオープン性の否定に繋がる、参加者からの直接的な購読料金の徴収はできない。では、参加者が直接的に金銭を支払うのではなく間接的に当報道メディアへ利益を送れる形が出来れば、情報格差や情報のオープン性の否定に繋がらないのではないか。
その発想から、参加ユーザーが運営するサイト(HP、ブログ、メルマガなど)に、当メディアが運営するアフィリエイト代理店のバナーを表示してもらい、間接的に当報道メディアが収益を確保でき、更に参加ユーザーにも利益になる仕組みとして、参加ユーザーアフィリエイトパートナー制度の運営を立案する。
但し、絶対条件になるのは「強制」ではないこと。強制にしまうと結果的に情報格差に繋がり、オープン性は崩壊する。
強制にするのではなく、他のアフィリエイトにない独自性を付与して、自発的な参加の促進となる仕掛けが必要となる。

独自性

- ・アフィリエイトポイントの発行
広告対価だけではなく、広告貢献度に比例して当メディア内での言論活動に利用出来る仕組み。
- ・言論情報とのリンク
バナー広告の表示だけではなく、当報道メディア内の情報の表示と関連付け。

この2つの、報道メディアだから行える独自性を付与し、強制ではない自発的な参加意義を提供する収益モデルの確立を目指す。

広告主の対象は大手企業だけではなく、小売店舗でも気軽にスポンサーになれる程度の広告料金設定を行い、広く全国の企業を募る。

1)アフィリエイトパートナー制度の広告対価とポイント

アフィリエイトパートナー制度への参加方法は大きく2つに分かれる。

・アフィリエイトパートナー契約ユーザー

ユーザー個人が運営するサイト(HP、ブログ、メルマガなど)に当メディアが提供するアフィリエイトのクライアントプログラムを組み込み、広告媒体となる方法。

報酬

- * 広告媒体としての広告対価、金銭の支払
- * アフィリエイトポイントの発行

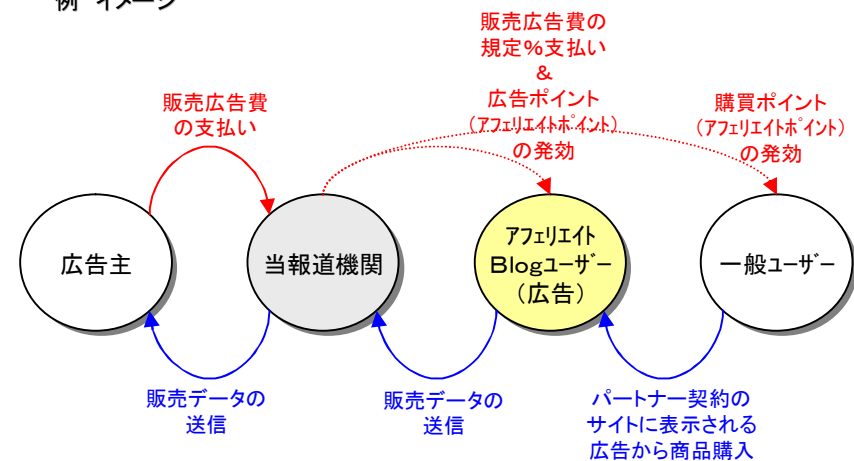
・一般ユーザー

個人運営サイトを所持していない、又は所持していてもパートナー契約をしていないユーザーで、アフィリエイト広告から商品の購入などでの参加方法。

報酬

- * アフィリエイトポイントの発行

例 イメージ



* 商品購入だけが金銭、ポイントの発行対象ではない

報道メディア設立プロジェクト 草案

■ 収益モデル

◇ 3、参加ユーザーアフィリエイトパートナー制度

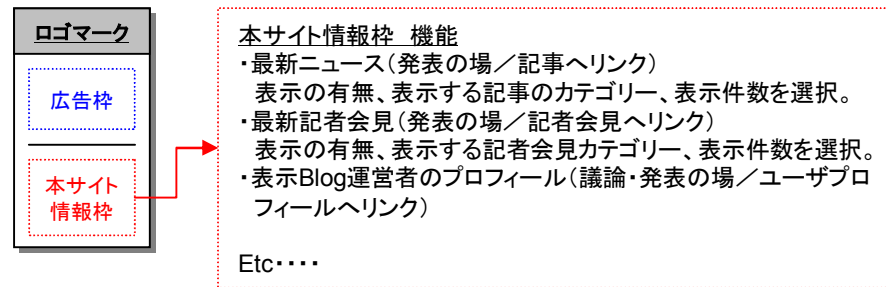
2) パートナーサイトに表示されるアフィリエイトの内容

パートナーサイトに表示される内容は2つ。

1つは一般的な広告枠で、既存のアフィリエイトが持つ機能は全て網羅し、尚且つ表示する広告種別や数、レイアウトなど可能な限りサイト運営者の好みにカスタマイズできる機能を装備させる。

もう1つは当メディアの情報とのリンク。

単純な情報の表示やリンクだけではなく、当報道メディア内でのサイトオーナーの発言などやプロフィールなどがわかるような情報リンクにする。



3) アフィリエイトポイントの利用方法

アフィリエイトで取得するポイントの利用方法として、情報発信者への投げ銭機能を装備する。

アフィリエイトのポイントに金額を設定し、情報発信者が提供した情報毎に読者が評価を与え、そのポイントに換算された金額を発信者が受け取る。

(ジャーナリストなどに当報道メディアが支払う取材費や執筆料とは全く別のもの)
これにより、情報発信者の発信活動の励みになり、読者側はより発信者への影響力を与えることができるようになる。

投げ銭ポイントを取得できる立場

- * 記事を掲載するジャーナリスト
- * 記者会見、又は記者発表資料を提供する市民
- * 論評・分析を掲載するブロガー(ジャーナリスト、市民)

4) 概算と目標

運営サイトを持っているユーザーには可能な限りパートナー登録をしてもらい、運営サイトを持っていないユーザーも当メディアのアフィリエイトから商品購入をしてもらえるように広告費を抑えて幅広い大小にかかわらないスポンサー企業の獲得を目指す。

この収益によって、当報道メディアの基本運営費用の捻出を目指す。